



中興化成工業

着色のフッ素樹脂粘着テープ

視認性向上 200度の環境下でも使える

中興化成工業（東京都港区）は、着色のフッ素樹脂粘着テープ「AGF1100B LUE」を開発、製造することに成功した。フッ素樹脂の特性を保持したまま、テープの表層に色をつけることで視認性が上がり、最高使用温度200度の環境下でも識別用途への使用が見込まれる。販売開始時期は6月以降を予定する。

AGF1100B テープとの併用も可能。寸法は呼び厚0.16mm、規格幅25・50mm、長さ10m。一般的にフッ素樹脂の粘着テープは、製造工程の関係上、ベージュや茶色となる（ガラスクロス基材の場合）。このため、視認性には特化していなかった。フッ素樹脂粘着テープの採用先の一つに食品製造工程があるが、今年6月の食品衛生法改正により、同業界では使用される工業材の基準が変更となる。従来のフッ素樹脂粘着テープでも新法の基準は満たしているが、同社の採用現場と同様に、食品工程など多種多様なシーンでの採用を見込む。さらに、昨今の製造工程で求められる高度な識別認識や異物認識の課題解決製品として、年間6千万円の売上げを目指す。今年6月以降の販売開始を予定する。

同社は、フッ素樹脂などの高機能樹脂の総合加工メーカー。1963年に創業し、創業時からフッ素樹脂製品を製造。特にフッ素樹脂粘着テープでは20種類以上の製品を品ぞろえしており、フッ素樹脂製品メーカーの中ではトップ。豊富な種類でユーザーの課題に沿った提案ができることを強みに、実績を拡大している。